富里市 小学校区別防災カルテ

＜概況＞

4 浩養小学校

地区の概況

[地形・地勢]
高崎川の最上流部であり、川の周辺には斜面が存在する。地区の大半は台地であり、南部を中心に農地利用されている。

[交通]
主要地方道富里・酒々井線が校区を東西に走り、南東部で、南北に走る主要地方道八街三里塚線と交差する。

[人口]
人口は8校区のうち2番目に少ない。年齢別人口割合をみると年少人口は市全体の割合より低く、老年人口は高い。

[建物]
1km²当たりの建物棟数割合は8校区のうち1番低く、市全体の平均の約半分である。木造老朽建物割合は40.1%である。

[避難施設]
指定緊急避難場所は2箇所、指定避難所は2箇所（収容人数は623人）指定されている。

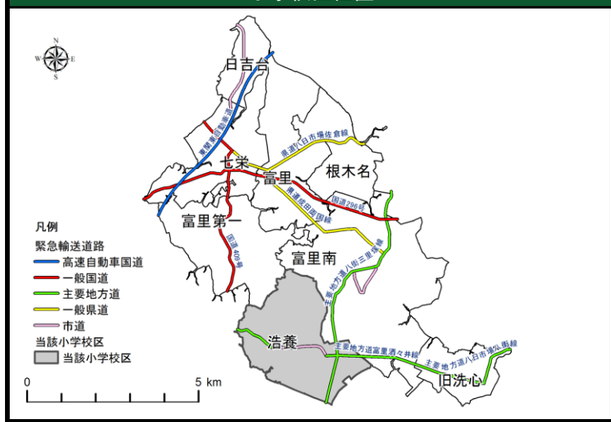
			小学校区(a)	市全体合計(b)	割合(a/b)
面積			7.85 km²	53.88 km²	14.56%
人口・家屋の分布状況	人口分布状況	人口	1,862 人	50,134 人	3.71%
		人口密度	237.28 人/km²	930.48 人/km²	ー
		男女別人口 男	969 人	25,584 人	3.79%
		男女別人口 女	893 人	24,550 人	3.64%
		世帯数	759 世帯	22,654 世帯	3.35%
		0歳以上～14歳	154 人	5,754 人	2.68%
		15歳以上～64歳	1,130 人	31,569 人	3.58%
		65歳以上～	578 人	12,811 人	4.51%
		避難行動要支援者	431 人	10,851 人	3.97%
		うち 一次名簿対象者	154 人	3,399 人	4.53%
		うち 手上げ名簿対象者	277 人	7,452 人	3.72%
	建物分布状況	建物棟数	1,992 棟	26,684 棟	7.47%
		木造（S55以前）	799 棟	11,087 棟	7.21%
		木造（S56以降）	900 棟	10,704 棟	8.41%
		RC・SRC造	8 棟	290 棟	2.62%
		S造	104 棟	1,513 棟	6.87%
		その他	181 棟	3,089 棟	5.86%
		密集度	253.84 棟/km²	495.25 棟/km²	ー

避難施設

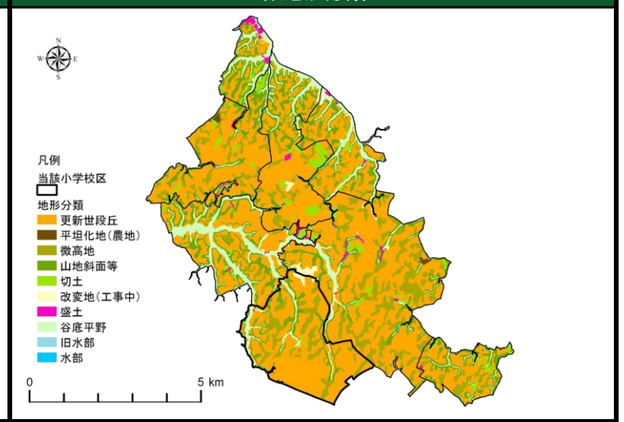
種類 指定緊急避難場所	指定避難所	福祉避難所	施設名称	収容人数（人） 指定緊急避難場所	指定避難所	福祉避難所
●	●		浩養小学校	1,495	178	0
●	●		富里南中学校	6,287	445	0
			収容人数合計	7,782	623	0

注　一次名簿対象者は、要介護3以上の方、障がい者、外国人等、手上げ名簿対象者は、単身の高齢者、妊産婦等を示す。
　　避難施設の収容人数は、複数の小学校区にまたがる中学校の収容人数も、全体の値を記載している。

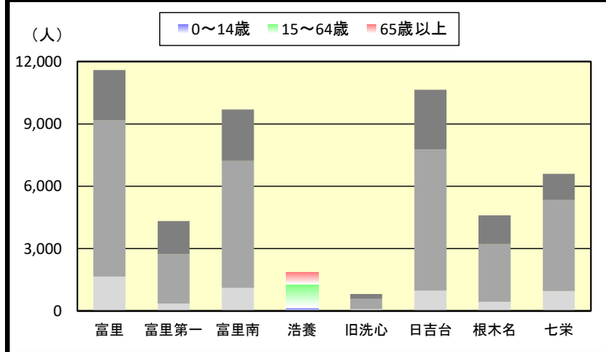
小学校区位置



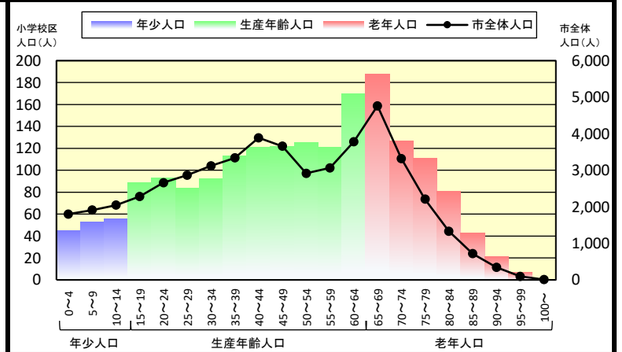
微地形分類



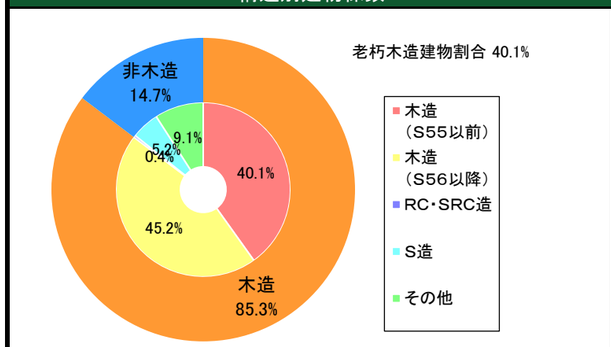
年齢別人口（他地区との比較）



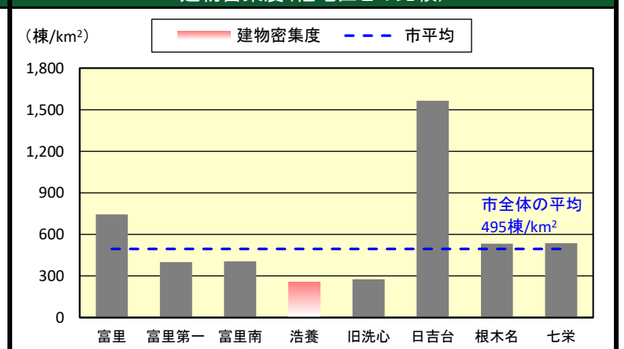
年齢別人口分布



構造別建物棟数



建物密度（他地区との比較）



防災関連機関

施設名	所在地
富里市役所	富里市七栄652番地1
富里市消防本部・消防署	富里市七栄735-2
成田警察署	成田市加良部3-5
日本医大千葉北総病院（災害拠点病院）	印西市鎌苅1715
成田赤十字病院（災害拠点病院）	成田市飯田町90-1
東邦大学医療センター佐倉病院（災害拠点病院）	佐倉市下志津564-1

その他の防災施設

種類	地区内	市全域
防災行政無線屋外子局	10箇所	81箇所
ドクターヘリ発着場	1箇所	15箇所
要配慮者施設	1箇所	33箇所
観測所	1箇所	3箇所
駐在所・交番	1箇所	4箇所
郵便局	0箇所	4箇所
その他公共施設	0箇所	6箇所

平成30年3月20日現在

富里市 小学校区別防災カルテ
＜結果＞

4 浩養小学校

風水害

		箇所数（箇所・地区）	重なる面積（ha）	避難の対象世帯数（世帯）	避難の対象者数（人）
土砂災害想定結果	急傾斜地崩壊危険箇所	1	0.25	1	2
	土砂災害警戒区域	0	0.00	0	0
	うち特別警戒区域	0	0.00	0	0
	山腹崩壊危険地区	0	0.00	0	0

		根木名川浸水（洪水）想定区域		内水氾濫箇所		
浸水被害想定結果		小学校区（a）	市全体合計（b）	内水氾濫種類	小学校区（a）	市全体合計（b）
	浸水面積（km²）	0.00	0.11	床上浸水（棟）	2	15
	浸水する建物数（棟）	0.00	109.00	床下浸水（棟）	14	94
	避難の対象者数（人）	0.00	332.49	道路浸水（箇所）	1	26

地震災害

地震被害想定結果		震度階級					液状化危険度			
		5弱	5強	6弱	6強	7	PL＝0	0＜PL≦5	5＜PL≦15	15＜PL
	面積（km²）	0.00	0.00	7.85	0.00	0.00	6.83	0.00	1.02	0.00
	面積率（%）	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00	86.98	0.00	13.02	0.00

建物被害（棟，出火件数のみ件）		小学校区（a）	市全体合計（b）	割合（a/b）
木造	全壊	120	1,751	6.86%
	半壊	340	4,766	7.13%
非木造	全壊	6	60	9.84%
	半壊	7	160	4.48%
焼失棟数		0	7	6.75%

人的被害（人）	小学校区（a）	市全体合計（b）	割合（a/b）
死者数	1	11	7.68%
負傷者数	90	1,190	7.54%
重傷者数	13	181	7.32%
避難者数	161	4,646	3.47%
避難所避難者数	97	2,788	3.47%

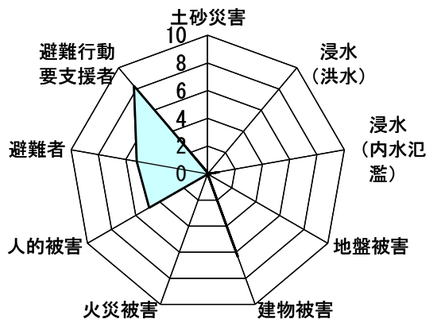
上水道断水人口（人）	小学校区（a）	市全体合計（b）	割合（a/b）
断水人口	513	25,672	2.00%

下水道支障人口（人）	小学校区（a）	市全体合計（b）	割合（a/b）
支障人口	0	1,053	0.00%

注　地震被害想定結果の建物被害、ライフライン被害は、冬18時強風時、死傷者数は冬深夜強風時の結果
　　避難所避難者数、断水人口、下水道支障人口は、地震発生直後の結果

災害の種類		災害の評価（%）	数値	順位
風水害	土砂災害	土砂災害の影響を受ける避難人口率 ※避難対象人数（人）/地区の総人口（人）	0.1	4/8
	浸水（洪水）	洪水の影響を受ける避難人口率 ※避難の対象者数（人）/地区の総人口（人）	0.0	2/8
	浸水（内水氾濫）	建物が内水氾濫の影響を受ける被害率 ※床上床下浸水合計棟数（棟）/地区全体建物数（棟）	0.8	1/8
地震被害	地盤被害	液状化の被害面積率 ※危険度15＜PL（m²）/地区全体面積（m²）	0.0	6/8
	建物被害	地震による建物被害率 ※全壊棟数（棟）/地区全体建物数（棟）	6.3	6/8
	火災被害	火災による建物被害率 ※焼失棟数（棟）/地区全体建物数（棟）	0.0	5/8
	人的被害	地震災害による死傷人口率 ※死傷者数（人）/地区全体人口（人）	4.9	1/8
	避難者	地震災害による避難人口率 ※避難所避難者数（人）/地区全体総人口（人）	5.2	5/8
避難行動要支援者		避難行動要支援者率 ※避難行動要支援者数（一次名簿のみ）（人）/地区全体総人口（人）	8.3	1/8

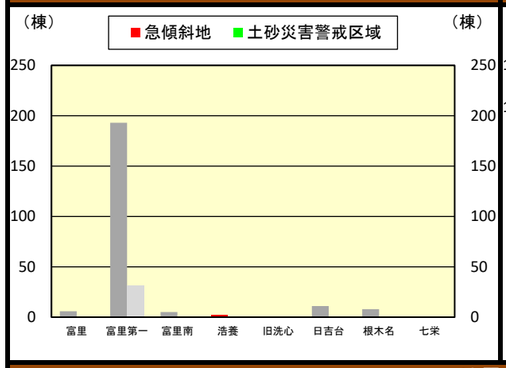
評価指標



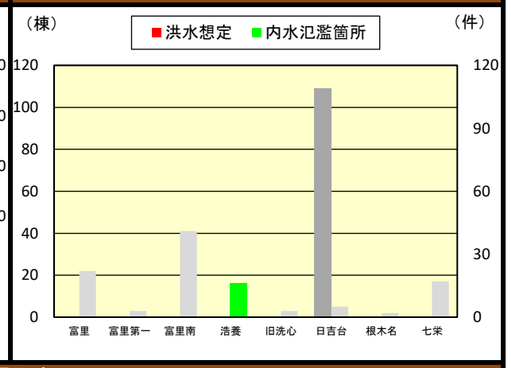
グラフの見方：
　評価指標は、上記の災害の種類を、災害の評価に基づき、パーセンテージで表したものです。グラフの九角形面積が広いほど、地域が総合的に「災害に弱い」ことを示しています。

風水害

土砂災害被害想定結果（他地区との比較）

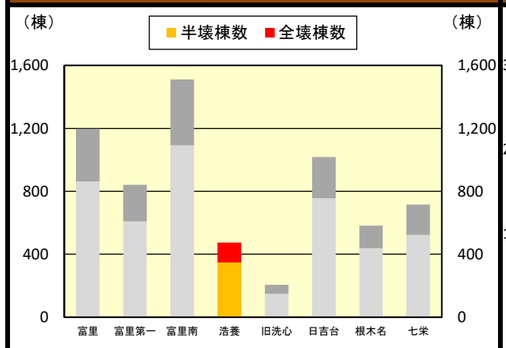


浸水被害想定結果（他地区との比較）

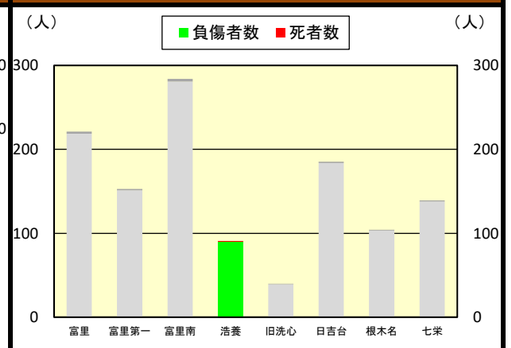


地震災害

想定される建物被害（他地区との比較）



想定される人的被害（他地区との比較）



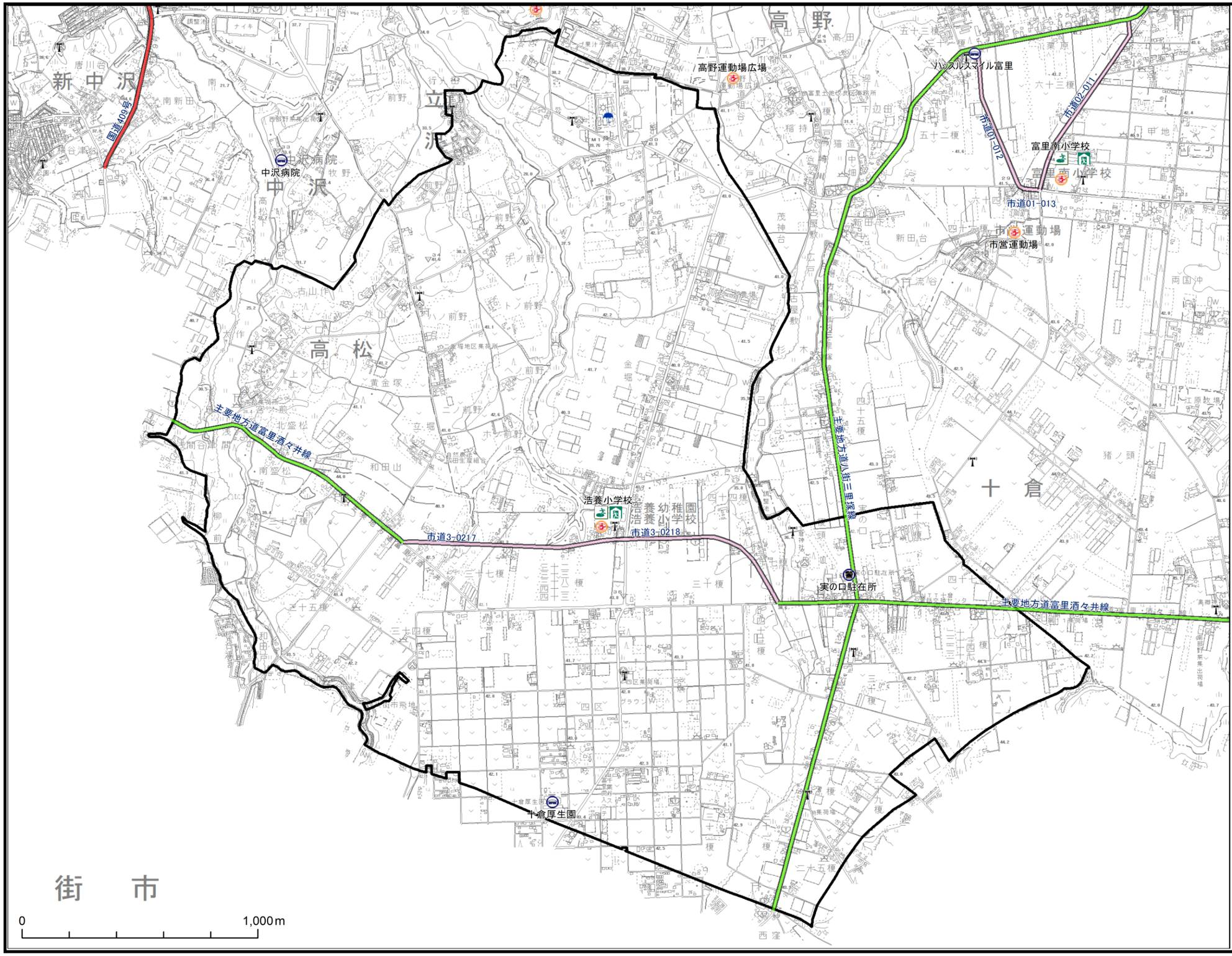
地区の災害特性		防災対策の方向性	
風水害	●高崎川支流が校区の北西地域に存在しており、急傾斜地崩壊危険箇所が1箇所存在する。 ●内水氾濫の被害率（建物棟数比）は8校区の中で1番高い。	風水害	●急傾斜地崩壊危険箇所の対策工等の整備が必要である。 ●内水氾濫箇所は、雨水排水機能の強化が必要である。 ●大雨等による風水害に備え、日ごろから避難体制（特に要配慮者への支援）の整備を進める必要がある。
地震被害	●富里市直下の地震が発生した場合、全域で震度6弱の強い揺れが想定される。 ●低地では液状化の危険性があるものの、比較的影響は小さい。 ●建物の全壊率は3番目に低い。 ●死傷者率は最も高い。 ●校区の避難所避難者数は97人に対して指定避難所の収容人数は623人であり収容力は十分である。 ●避難行動要支援者率は最も高い。	地震被害	●昭和56年以前の建物には耐震化や家具の固定等を行う必要がある。 ●日ごろから避難訓練への参加や家庭内備蓄を行う必要がある。 ●避難行動要支援者の割合が高く、避難時に支援が必要となる。

平成30年3月20日現在

富里市 小学校区別防災カルテ

＜現況　防災関連施設位置図＞

4 浩養小学校



当該小学校区及びその周辺の避難場所、避難所、公共施設を表示した図である。

施設等
- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 福祉避難所
- 消防本部・消防署・分署
- 駐在所・交番
- ドクターヘリ離発着場
- 防災行政無線屋外子局
- 観測所
- 市役所
- その他公共施設
- 郵便局
- 要配慮者施設

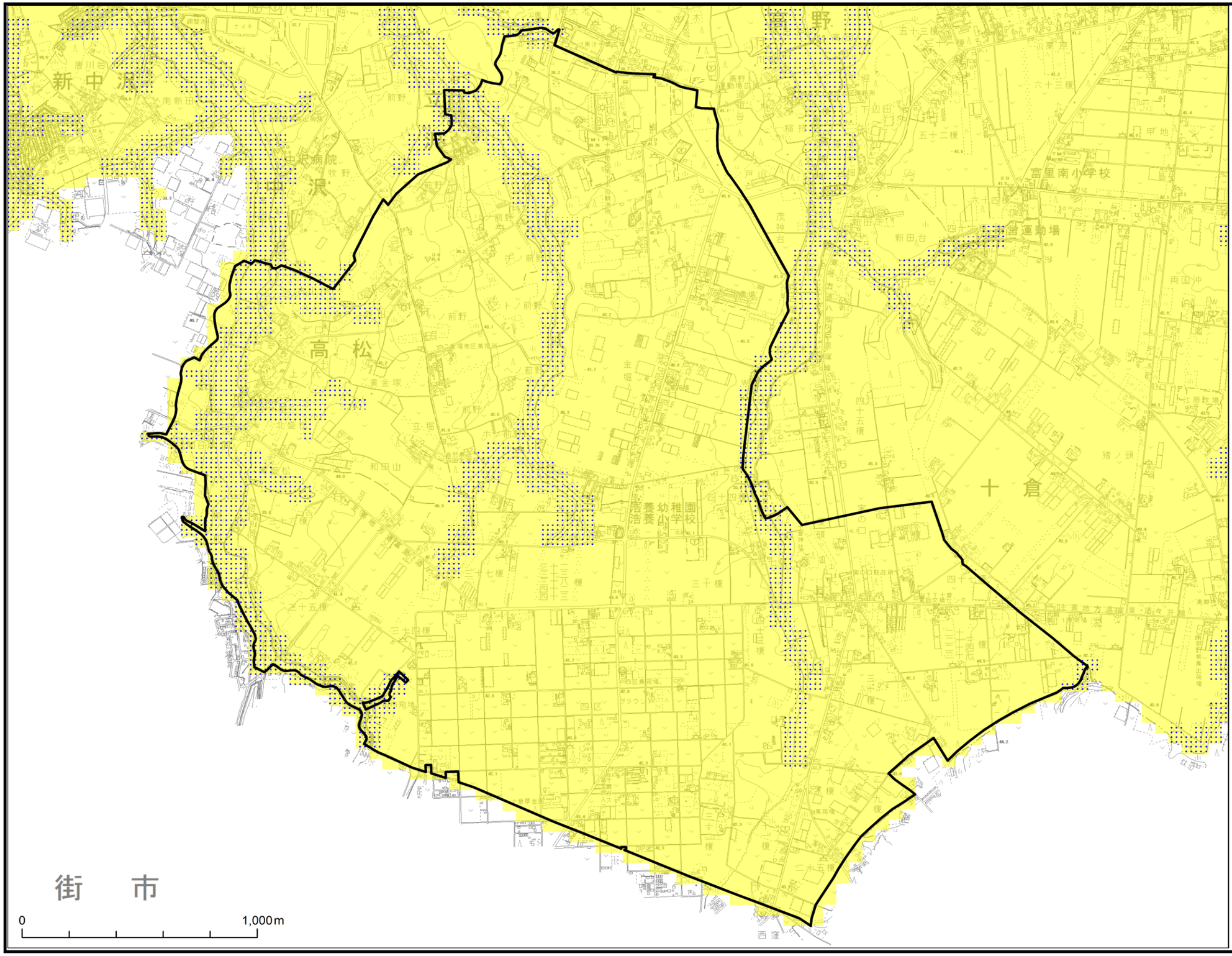
緊急輸送道路
- 高速自動車国道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 市道

平成30年3月20日現在

富里市 小学校区別防災カルテ

＜地震　想定される震度および液状化危険度分布図＞

4 浩養小学校



当該小学校区の震度階級および液状化危険度を、50mメッシュで表示した図である。

震度は、地盤条件、地震の規模（マグニチュード）や震源の深さ、震源からの距離等によって異なる。このため、相対的なゆれの強さは地震によって異なる。

また、PL値が大きいほど、液状化危険度は高い。

液状化危険度
- 15＜PL
- 5＜PL≦15
- 0＜PL≦5
- PL＝0

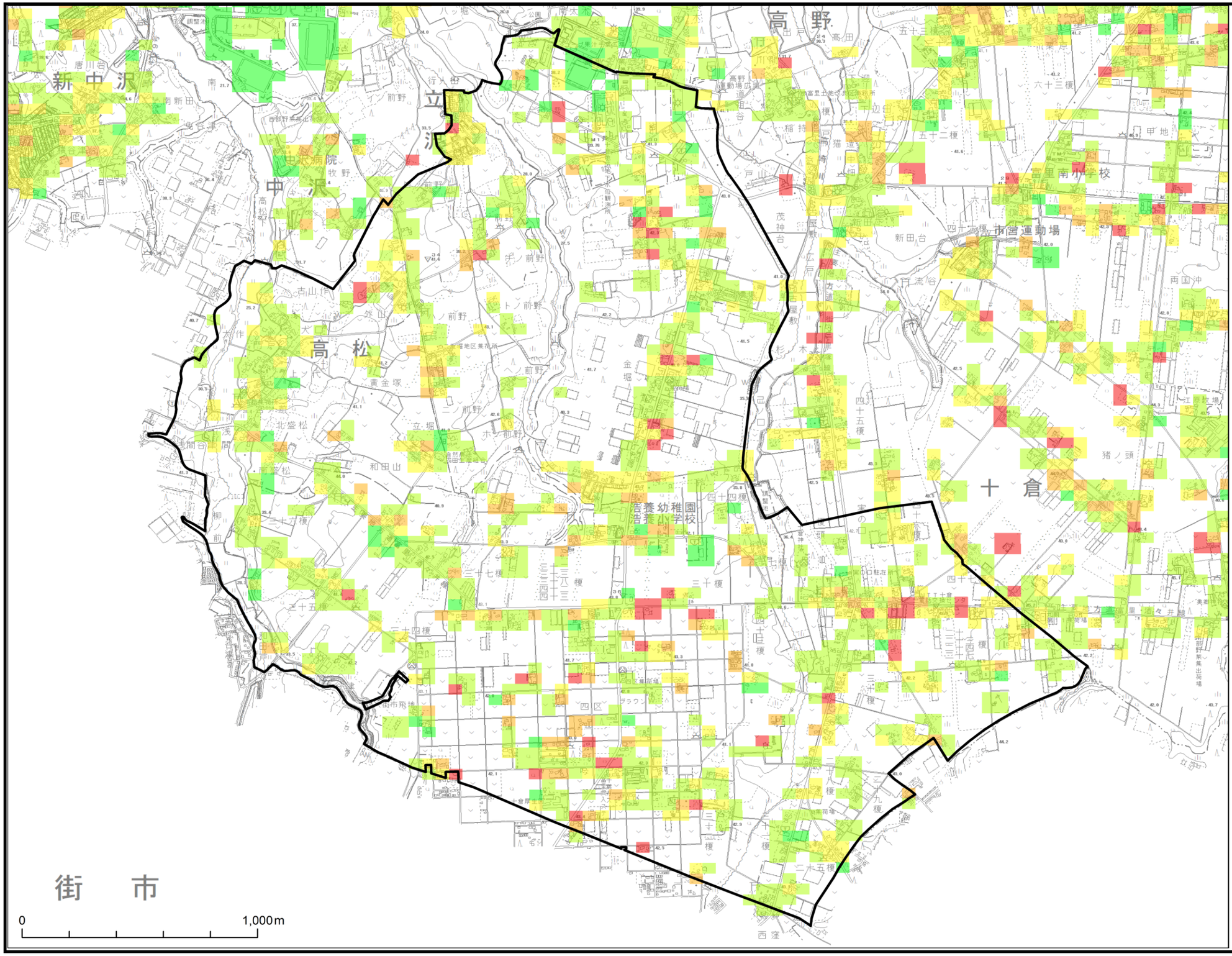
震度階級
- 5強
- 6弱
- 6強
- 7

平成30年3月20日現在

富里市 小学校区別防災カルテ

＜地震　想定される建物全壊率分布図＞

4 浩養小学校



当該小学校区の建物全壊率を50mメッシュで表示した図である。

建物全壊率は、ゆれの強さ、液状化の程度、建物の構造、建築年代等によって異なる。

N
W
E
S

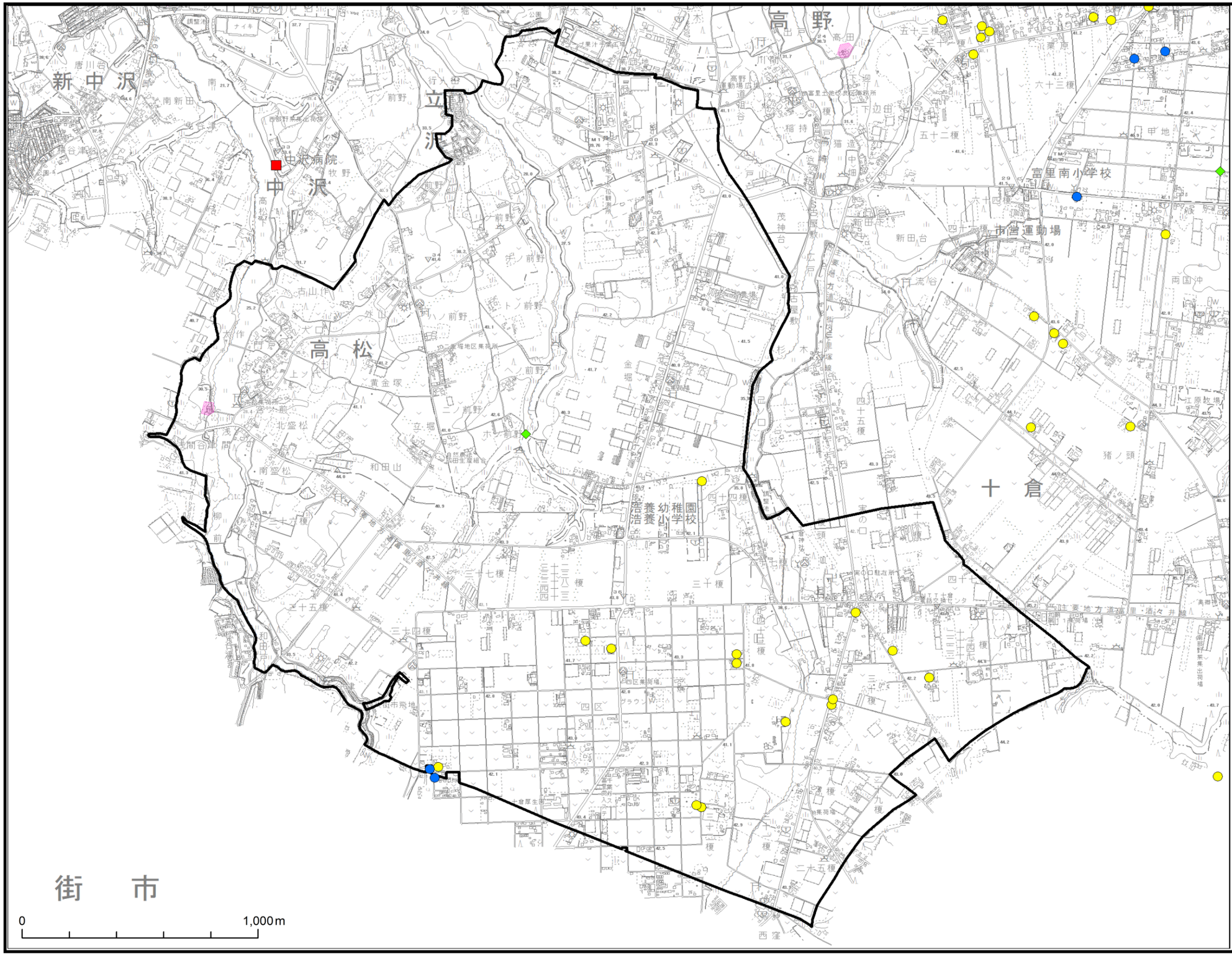
全壊率
- 1%未満
- 1～5%
- 5～10%
- 10～20%
- 20%以上

平成30年3月20日現在

富里市 小学校区別防災カルテ

＜風水害　浸水想定区域図（根木名川），土砂災害の危険な箇所等＞

4 浩養小学校



浸水想定区域および土砂災害の危険な箇所等、浸水等の被害箇所を示した図である。

浸水想定区域は、浸水被害想定調査で対象とした河川のうち、根木名川の浸水想定区域を浸水深別（0.5m未満、0.5～1.0m、1.0～2.0m、2.0～5.0m、5.0m以上）に表示した。

土砂災害は、土砂災害警戒区域・特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）、急傾斜地崩壊危険箇所、山腹崩壊危険地区を表示した。

浸水等被害箇所は、床下浸水、床上浸水、崖くずれ、道路冠水別に示した。

※浸水想定区域図とは、水防法により河川管理者が、降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を示したものである。

浸水等被害箇所
- 床下浸水
- 床上浸水
- 崖くずれ
- 道路冠水

土砂災害警戒区域等
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

急傾斜地崩壊危険箇所
- 急傾斜地崩壊危険箇所

山腹崩壊危険地区
- 山腹崩壊危険地区

根木名川浸水想定区域

想定浸水深
- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～2.0m未満の区域
- 2.0～5.0m未満の区域
- 5.0m以上の区域

平成30年3月20日現在